

7. イチゴのハダニ類防除におけるチリカブリダニの放飼事例と利用上の問題点（情報）			
<p>[要約]</p> <p>チリカブリダニの放飼と最小限の殺ダニ剤散布により、イチゴのハダニ類の密度を果実に被害のないレベルに抑制できる場合が多い。効果のなかった圃場ではチリカブリダニに対する環境条件と使用薬剤の影響が大きい。</p>			
研究室名	病虫研究室	連絡先	0869-55-0543

## [背景・ねらい]

イチゴ栽培においてはハダニ類の多発がとりわけ問題となるが、登録がある殺ダニ剤は限られているため、そのみでは防除が困難である。

そこで、天敵であるチリカブリダニ（商品名：スパイデックス）を利用した促成栽培の7圃場における現地防除事例を収集するとともに、問題点を把握する。

## [成果の概要・特徴]

1. チリカブリダニとそれに影響の少ない最小限の殺ダニ剤を組み合わせれば、ハダニ類の密度を果実に被害のないレベルに抑制できることが多かった（図1）。
2. ただし、ハダニ類発生初期からの放飼でも、チリカブリダニが定着しにくい圃場や、4月以降のハダニ類の増殖にチリカブリダニが追いつかない圃場があった。これはハウス内の乾燥や過度の摘葉などの環境条件や薬剤散布の影響によるものと考えられた。
3. 殺虫剤使用の低減により、まれにイチゴハナゾウムシなどのマイナー害虫が顕在化する場合があった。

## [成果の活用面・留意点]

1. 本情報は県内のイチゴ主要産地で活用できる。
2. チリカブリダニに影響が少ない殺ダニ剤・殺虫剤を使用する。
3. 乾燥条件ではハダニ類が増えやすく、チリカブリダニが増えにくい。
4. 過度の摘葉はチリカブリダニを圃場外に持ち出すことになるので避ける。
5. ハダニ類が圃場で局部的に発生している場合は、殺ダニ剤のスポット散布も有効である。

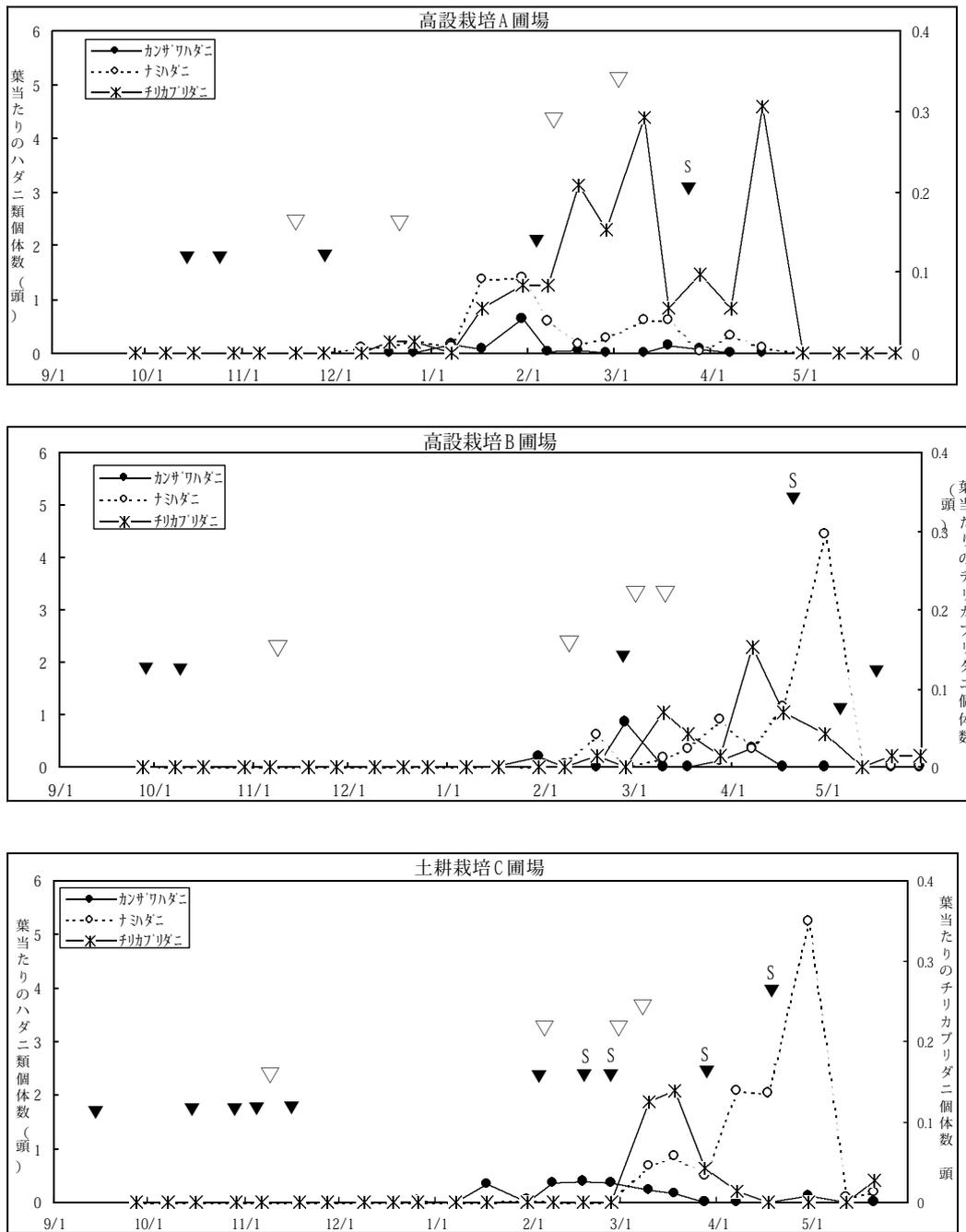


図1 イチゴのハダニ類に対するチリカブリダニの放飼事例

(▽：チリカブリダニ放飼日、▼：ハダニ類に効果のある薬剤の散布日、S：スポット散布)

[その他]

試験研究課題名：天敵を活用した減農薬果菜類栽培の定着化技術の確立

予算区分：国補（病害虫防除農薬環境リスク低減技術確立事業）

研究期間：平成 13～15 年度

関連情報等：バイオコントロール 2003 第 7 巻 1 号（日本バイオリジカルコントロール協議会）